

科目「中学音楽」シラバス

1. 中学3年間での教科到達目標

多様な音楽文化の理解を深め、生涯にわたって美に対する憧れの心情を養う。	音楽の幅広い活動を通して、感性を高め、自己表現できる積極的な能力を養う。	基本的な音楽理論を通じ、音楽の仕組みを学ぶとともに、音楽を楽しみ、親しめる心の目を開かせ、仲間と協力して音楽を創り上げる能力を養う。
-------------------------------------	--------------------------------------	--

S：想定以上に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

A：期待通りに該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

B：部分的に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

C：該当の能力の醸成が不十分と判断されるもの

2. 科目の到達目標と評価の観点

(教科名) 音楽 (科目) 音楽	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	1 単位	第2学年	教科書：中学生の音楽2・3上 教育芸術社 大妻指定の音楽ノート ソプラノリコーダー ¹ アルトリコーダー ²
学習の到達目標	音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、歌唱や器楽の表現力を高める事に重点を置く		
評価の観点	<p>＜知識・技能＞ 楽曲の内容や曲想に関心を持ち、その内容にふさわしい音楽表現を工夫して主体的に取り組もうとしている。</p> <p>＜思考力・判断力・表現力＞ 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて、思いや、意図を持っている。</p> <p>＜主体性・多様性・協働性＞ 楽曲の内容や曲想を生かした音楽表現をするために、必要な技術や技能の能力を育てる。</p>		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・・ 100%

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・ 80%

C：「努力を要する」状況と判断されるもの ・・・ 60%

D：未提出、未実施 ・・・ 0%

2. 学習計画及び評価方法等

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学 期	<p>【合唱】 「明日を向いて」 (新沢としひこ作詞・ アベタカヒロ作曲)</p> <p>「明日を向いて」の 実技テスト</p> <p>【器楽】 アルトリコーダー 「威風堂々」ほか (エルガー作曲)</p> <p>リコーダーの実技テスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発声、呼吸法、強弱など、基礎的な歌唱に関する技能を身に付ける。 ・合唱祭の導入として、新クラスでの主体的な取り組みを目指す。 ・昨年の合唱祭での取り組みの経験を生かし、合唱のハーモニーの美しさを感じ取る。 ・前半と後半の曲想の違いを感じ取り、曲にふさわしい表現を工夫して歌う能力を養う。 ・グループ（またはペア）を組み、クラス内で発表会形式でのテストを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ソプラノリコーダーとの違いを理解し、基礎的な奏法（構え方・姿勢・運指など）を覚える。 ・四種のアーティキュレーションの奏法を身につけて、豊かな演奏表現を目指す。 ・グループによるアンサンブルに取り組む。曲の構成を理解し、旋律のかけ合いや音の重なりに注目しながら、曲想にふさわしい表現を工夫して演奏する。 ・グループごとに全員の前で発表し、練習の成果を披露する。 ・パートの役割や旋律の音の働きを理解し、全体の響きを感じ取りながら表現を工夫しながら合奏をできるようとする。 ・他のグループ演奏の鑑賞をし、それぞれの良さを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『無理のない発声』『歌う姿勢』『口の開け方』について改めて説明し、1年次に行った活動と繋げられるよう促す。 ・今後の音楽活動に向け、発表時的心構えや鑑賞時の態度にも注意を促す。 <ul style="list-style-type: none"> ・アーティキュレーションについては、『ノンレガート奏法』『スラー奏法』『スタッカート奏法』『ポルタート奏法』の4種を扱う。 ・同じ曲でも、演奏楽器のアレンジやテンポの違いにより、聴こえ方が変わることを認識させる。 ・ワークシートに記入。

1 学 期	<p>【楽典】 音名・音部記号・調号・ 臨時記号</p> <p>音楽の記号・用語</p> <p>【鑑賞】 「小フーガト短調」 (J. S バッハ作曲)</p> <p>【歌唱】 サンタ ルチア</p>	<ul style="list-style-type: none"> 普段何気なく目にしている基本的な記号や音符について、書き方とその意味を理解し、音楽への好奇心や関心につなげる。 日本、イタリア、ドイツ、英米の音名を理解する。 シャープやフラットのついた音名を理解し読譜力を高める。 「反復記号」についての基礎的な知識を身に付ける。 音楽における様々な記号に関して、読みと意味とスペルを学び、音楽表現の更なる向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> イタリア、ドイツ、英米の音名に違いがあることを理解させる。 「リピート」「カッコ」「D. C.」「D. S.」「Fine.」「Coda」の意味と扱い方を説明する。 フーガ形式について説明したうえで、主題を基にした4つの声部の重なり方について理解させる。 各声部における「主題」と「応答」の流れを説明する。 1学期に学んだ音楽理論や鑑賞に関する確認をさせ、これまでの学習と繋げられるよう促す。 日本とイタリアの文化的・歴史的違いにも触れ、カンツォーネについての理解を深める。 他の代表的なカンツォーネも鑑賞し、言葉の発音や声の響きを感じ取るように促す。
-------------	---	---	---

夏休み課題	<p>【合唱】 クラス合唱曲の選曲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 合唱祭候補曲を配信聴き、感想用紙の記入をし、クラス合唱曲の選曲を行う。 女声合唱の響きに关心を持たせ、主体的にクラス合唱に取り組ませる導入とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 齊唱と合唱との違いについて理解を促す。 夏休みに学習を行うことができるよう、事前に Google クラスルームにて配信しておく。 合唱の和声的なハーモニーへの理解を促す。 同じ曲でも編曲者によって曲の内容や雰囲気が変わること等を説明し、女声合唱への理解を促す。
2学期	<p>【合唱】 曲目の決定 合唱の役割選出 合唱曲の音取りおよび練習 曲のイメージ作り 指揮法の基礎 伴奏の注意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> クラス合唱として取り組む曲目を決定する。 指揮者、伴奏者、パートリーダーを選出する。 パートリーダーを中心に自主的に音取りを行い、ただし音程感やリズム感を身に付ける。 曲に対するイメージをイラストにして描き、曲想をとらえる。 歌詞の意味や歌詞に込められた心情を考え、演奏表現を工夫して歌う。 パートやグループ内で話し合いを行い、どのように歌うかについての考え方や意図を持つ。 拍子の基本的な図形を覚えて、基礎的な指揮の技能を身に付ける。 曲に合わせた表現を考え、工夫して指揮を振る技能を身に付ける。 歌との関連性を考えて、バランスを考えて演奏できる技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 立候補者が出やすい雰囲気や、全体の前で自己表現ができる雰囲気を作らせる。 パートリーダーが指示を出しやすい様に、皆で協力して参加できるよう声掛けを行う。 歌詞の内容や曲想に興味を持ち、主体的に取り組ませる。 曲の基本的なテンポのみならず、リタルダンドやフェルマータ、強弱の取り扱いについても触れる。 楽譜に書かれている強弱だけでなく、自ら工夫して強弱や音色をつくる必要性を伝える。 指揮者と伴奏者と合唱の3者の一体が大切であることを理解させる。

2 学 期	各パートの合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・パートごとのイメージを基に、全体としてのまとまりや音楽表現を工夫して歌えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜に書かれている様々な記号に着目して表現方法を考えさせる。 ・多声的なパートの役割等の工夫について考えさせる。 ・他のパートにつられず、自分のパートがしっかりと歌えることの大切さを認識させる。 ・他の仲間の演奏を聴き、自分の歌い方の参考にできるようにする。
	歌の実技テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のパートを1人ずつで歌い、積極的に歌唱に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指揮者や伴奏者は、グループの演奏を聴いて、各声部の役割や状況を把握し、これから合唱作りの参考とする。
	指揮者・伴奏者のテスト	<ul style="list-style-type: none"> ・指揮、伴奏の技術的内容の他に全体を指導する試験も行う事によって、リーダーとしての自覚を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指揮者は「基本的な技能の習得」や「曲を通して問題なく指揮を触れたか」等を評価の観点とする。 ・伴奏者は「曲種に応じた演奏表現」や「曲を通して問題なく弾けたか」等を評価の観点とする。
	クラス合唱の録画	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏を録画して、意見の交流を行い、曲のイメージを具体化し、演奏表現に更なる工夫を加える。 ・姿勢や表情、強弱、各声部のバランス等について客観的に聴き、演奏表現に繋げる。 ・「全体を通しての感想」「個人としての感想」を記入し、良い点や反省点を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の歌のテストから、指揮者や伴奏者は「全員に適切な指示が出せたか」を確認する。 ・効果的な響きになるために合唱隊形を工夫させる。
	振り返り		<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な意見交流ができるような主体性を持たせる。 ・次に向けてどのような練習が必要かの積極性を持たせる。
冬 休 み 課 題	「夢をあきらめないで」の音取りおよび暗譜	<ul style="list-style-type: none"> 各自で「夢をあきらめないで」の音取りと暗譜を行い、3学期の実技テストおよび卒業式での演奏に備える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜は事前に配布し、音源はGoogle クラスルームで配信する。

3 学 期	歌の実技テスト	<ul style="list-style-type: none"> 自分のパートを1人ずつで歌い、積極的に歌唱に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 他のパートにつられず、自分のパートがしっかりと歌えることの大切さを認識させる。
	仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返りながら、より充実した響きを目指す。 パートリーダーをはじめとして、生徒個人が的確な指示を出せる能力を養う。 仲間と協力して音楽を創り上げる能力を養う。 合唱祭を振り返り、感想文を提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発声や言葉の発音、呼吸法などを評価の観点とする。
	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 音取りや全体練習等を、主体的に取り組み、短時間で成果を上げるための集中力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「本番まで」「本番当日」「他クラスの演奏」「今後の活動」の4観点で作文を行う。 声部の役割や全体の響きを工夫しながら、どのように合わせて歌うかについて、考えや、意図を持たせる。 合唱祭での経験を基に、音取りやリズム習得において、短時間で仕上げる為の合理的な練習方法を工夫させる。
	【合唱】 卒業式の全体合唱 「夢をあきらめないで」 岡村孝子作詞・作曲	<ul style="list-style-type: none"> 「君が代」を齊唱で学習し、伝統的な楽曲の歌唱能力を養うとともに、一年間で養った歌唱技能を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識および技能の習得のみならず、式典の心構えについても触れる。
	【歌唱】 卒業式の歌	<ul style="list-style-type: none"> 中学2年生で習った内容を復習して次年度へつなげる。 	
	【楽典】 「一年間のまとめ」		

3. 学習計画及び評価方法等

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
<知識・技能> 授業で扱った音楽理論や用語・記号を理解し、読譜力が高まった。	定期考査 や提出物
<思考力・判断力・表現力> 表現豊かな演奏に向けて、発声や強弱やリズムなどの工夫ができた。	授業の様子や実技テスト
<主体性・多様性・協働性> 宿題を欠かさずこなす。不明点を解決するための努力をしている。	課題提出状況や、授業内・休み時間の様子で判断。

【提出物状況の評価基準】

- A : 期限を守り、答えの丸写しではなく自分の考えで8割以上解答している。
- B : 解答はしっかりとできているが期限を守れなかった。
もしくは期限を守れたが空欄が2割以上ある。
- C : 「努力を要する」状況と判断される
- D : 未提出、未実施